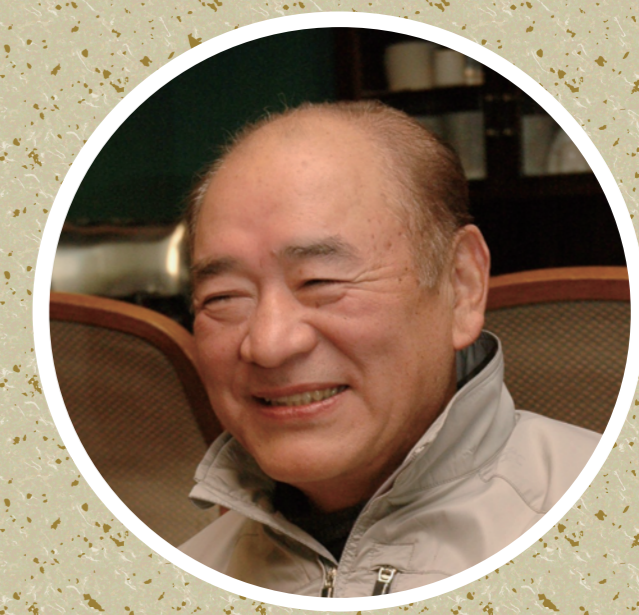


地域一丸となって新たな魅力づくり！

グループ名：いわき湯本温泉宿泊観光グループ

取材先：ホテル美里 主人・新妻 幸友 専務（福島県いわき市）

開湯千年以上、「鶴の伝説」や「三箱の御湯」と呼ばれ伊豫国道後温泉、摂津国有馬温泉と共に日本の三古泉として名が知られ、豊富で泉質の良い湯と新鮮な海の食べ物で有名ないわき湯本温泉。



●震災の被害は？

温泉街の一角にある「ホテル美里」は、建物は増築した玄関部分が沈み、各棟をつなぐエキスパンションジョイントや浄化槽が壊れ、浴室の配管系統も破損するなど大きな被害を受けた。



修復工事が進む「ホテル美里」

●グループ補助金を活用された感想は？

震災後、すぐ設備の復旧に取り組み、4月からお客を受け入れ始めたが、4月はじめの大きな余震で再び損壊。その後も、営業再開への意思は揺るぎなく、復旧工事しながら、少しずつ客の受け入れ態勢を整えていった。ただ、風評被害でなかなか観光客が来ない状態で、資金面での負担も大きく設備投資できるか不安があった。

そのような中で、施設・設備の復旧費の補助を受けられるグループ補助金の説明があり、いわき湯本温泉の17の旅館とスパリゾート・ハワイアンズで構成するグループを形成し、補助金を申請。補助金がなければ廃業したところもある。

設備の復旧では、補助金があることで金銭面、精神面の不安も軽減され、その分、その後の復興に力を、客に戻ってきてもらうためのことに力を入れられればと思っている。

●復興への思い

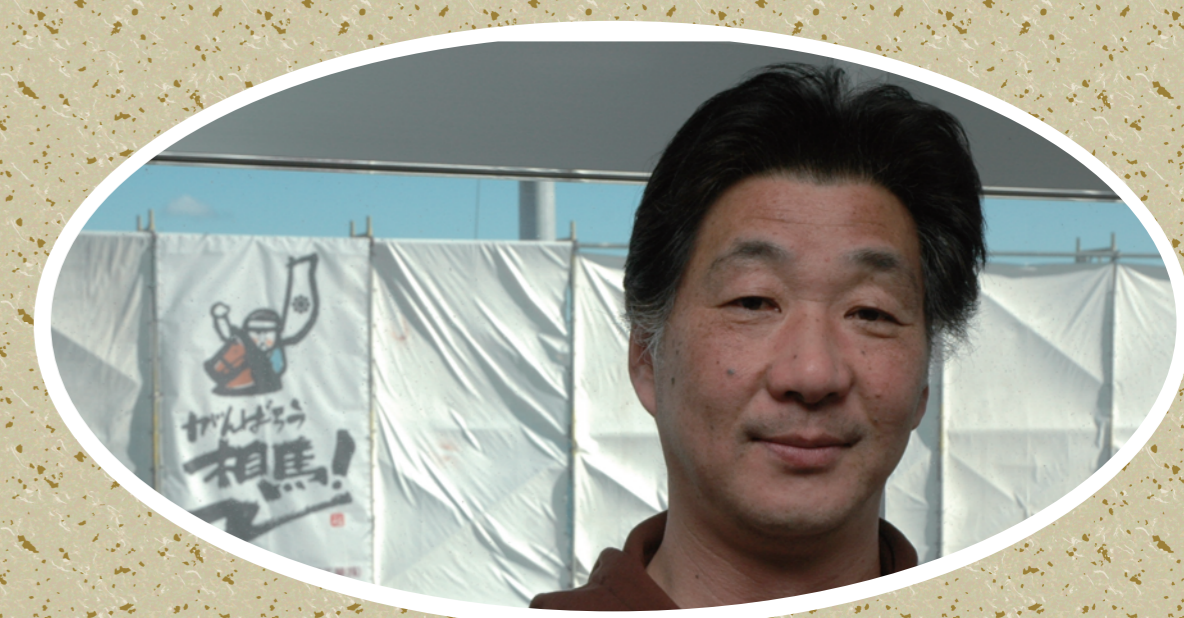
2月8日にはスパリゾート・ハワイアンズが本格的に再開され、どれだけ人が戻ってくるか不安もあるが、期待感が高まっている。風評被害をなくし、あらたな魅力づくりもしていけないと。個人個人はもちろん、温泉街全体として客に戻ってきてもらうようにするしかない。女将さんたちがキャラバンで東京にPRに行ったりしている。グループ一丸となって、復興に向けて力強い一歩を踏み出している。

松川浦の復興で、相馬全体を復興！

グループ名：相馬市松川浦観光振興グループ

取材先：(有)カネヨ水産 小野 芳征 社長（福島県相馬市）

松川浦は、日本百景の一つとして、古くは万葉集にうたわれた宇多川と小泉川の川口にできた福島県唯一の潟湖（せきこ）。海苔・アサリの養殖が行われる自然の中で、四季を通じて楽しむことができる観光スポット。浦内には大小いくつかの島々が点在し、小松島と言われ、県立自然公園にも指定された景勝地。(有)カネヨ水産は、この景勝地で旅館、小売、飲食を営む27社のグループの代表。



●震災の被害は？

松川浦の美しい景観は、大震災により甚大な被害を受け、グループを形成する27社のうち、旅館11軒、小売店6軒、飲食店3軒が全壊。残り7軒は半壊か一部損壊という甚大な被害を受けた。

●グループ補助金を活用された感想は？

今は、旅館10軒のみが営業を再開しているが、小売、飲食関係はまだ再開できない状況。一般観光客も9月ごろから戻ってきたが、客の80%は復旧関係の作業の人達。旅館は、作業員の方の利用があるので早く復旧すれば売り上げになるが、小売りは、店舗が全壊している上に、観光客が来ないと売り上げにならない。「もう無理だろうな」と諦めていた人たちが何人もいた。そのような中でグループ補助金の説明会があり、補助金が使えらるならば、もう少し頑張ろうと。補助金が、復興に向けて背中を押してくれた。

グループでは、理事会は月4～5回開催。震災前の客が来てくれるようにするにはどうすればいいか。最初は、復旧しても客が来なければ、と考えていたが、次第に復旧すればなんとかできると思えるようになった。松川浦は、観光資源が命。今は自分達のグループだけだが、一番の望みは漁港の再開。

●復興への思い

松川浦は、漁業者が魚を獲り、造船や電気や機械屋の事業が成り立つ、その次に仲買、資材、そして旅館、飲食店がある。全体的に一緒に立ち上がらないと、相馬の発展はない。元気で前向きに進んでいる姿を見せることで、他の人達を引っ張っていききたい。松川浦の復興で相馬全体の復興につながるの思いでやっている。



ホテル「みなとや」
営業再開した現在（右）
津波で損壊した直後（左）

